

2014年7月22日

「CDBに保全されているSTAP関連細胞株に関する検証について」（6月16日）の訂正

発生・再生科学総合研究センター
センター長 竹市雅俊

去る6月16日に「CDBに保全されているSTAP関連細胞株に関する検証について」で解析結果を報告した。そのなかで、若山研から提供された情報に基づき解析を行った結果、3種類のSTAP幹細胞株のうち、CAG-GFP遺伝子の挿入を持つ2種類の細胞株（FLS細胞株とAC129細胞株）は、互い異なる染色体に挿入を持つ事、FLS細胞株では15番染色体、AC129細胞株では18番染色体であるとした。しかし、その後の調査により、以下のことが判明した。

1) FLS細胞株において、GFP遺伝子の挿入は15番染色体としたが、これは、「若山研には、全身が光るマウスはCAG-GFP遺伝子のみが挿入された系統しか存在しない」という前提で解析を行ったことによる解釈の誤りであった。

2) FLS細胞株で、染色体に挿入されているのはCAG-GFP遺伝子だけではなく、Acr-GFP遺伝子も同じ染色体部位に並んで挿入されていることが判明した。

3) Acr-GFP遺伝子とは、精子先体反応の構成成分であるアクロシン(Acrosin)遺伝子の発現を調節する領域(Acr-promoter)にGFP遺伝子が接続されたもので、精子でGFPを発現する。CAG-GFP遺伝子のみを持つマウスでは、精子でGFP遺伝子が発現しないが、Acr-GFP遺伝子とCAG-GFP遺伝子を共に挿入したマウスでは、精子を含む全身でGFP遺伝子が発現する。

4) CAG-GFP遺伝子とAcr-GFP遺伝子が共挿入されたマウスは大阪大学岡部研究室で樹立され、その系統はCDBの若山研究室に分譲され維持されていた。

上記より、6月16日に報告した「解析結果に対する見解」を、次のように訂正する。

1. 若山氏が提供したGFPにより光るマウスから、小保方氏がSTAP細胞を作製し、それを若山氏が受け取ってSTAP幹細胞株を樹立したとされる。保管されていたSTAP幹細胞株の解析から、前回の報告で、その由来が不明とされていたFLS STAP幹細胞株について、CAG-GFP遺伝子及びAcr-GFP遺伝子が並列に染色体に挿入されていることが判明した。

2. CAG-GFP 遺伝子と Acr-GFP 遺伝子が共挿入されたマウスは大阪大学岡部研究室で樹立され、その系統は CDB の若山研究室に分譲され維持されていたが、FLS 細胞株 (STAP 幹細胞) と当該 Acr-GFP/CAG-GFP マウス (岡部研由来マウス) が、同じ染色体部位に GFP 遺伝子の挿入を持つかどうかは現在調査中であり、明確な結果が得られ次第報告する。

以上、報告の誤りを訂正する。

追記：前回の発表での誤表記：

誤：FLS-3およびFLS-4： B6129F1： CAG-GFP, ♂

正：FLS-3およびFLS-4： 129B6F1： CAG-GFP, ♂